

群馬県公立大学法人

令和2年度業務実績に関する評価結果

令和3年9月

群馬県公立大学法人評価委員会

目次

はじめに	1
I 全体評価	3
II 項目別評価	4
第1 教育研究等の質の向上に関する目標	4
1 群馬県立女子大学	4
2 群馬県立県民健康科学大学	6
第2 大学間の連携に関する目標	7
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標	7
第4 財務内容の改善に関する目標	8
第5 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	9
第6 その他業務運営に関する重要目標	9
資料	11
○ 群馬県公立大学法人業務実績評価実施要領	11
○ 群馬県公立大学法人評価委員会 委員名簿	15

はじめに

群馬県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第78条の2第1項の規定により、群馬県公立大学法人（以下「法人」という。）の令和2年度の業務の実績について、以下のとおり評価を行った。

1 評価方針

- (1) 大学の教育研究の特性及び大学の自主性や自立性に配慮しつつ、法人が適正かつ効率的に運営されるよう、法人の業務運営の改善や向上に資するものとする。
- (2) 法人運営の透明性の確保に資するよう、法人の各事業年度の業務運営に関する計画（以下「年度計画」という。）の進捗状況や中期目標を達成するための計画（以下「中期計画」という。）の達成に向けた取組の成果を明確に評価するものとする。
- (3) 法人がより魅力ある大学とするために実施する特色ある取組や工夫に対して、積極的に評価を行うものとする。

2 評価方法

評価は、「群馬県公立大学法人業務実績評価実施要領」に基づき、全体評価及び項目別評価により行った。

(1) 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、法人の業務実績の全体について総合的に評価を行った。

(2) 項目別評価

年度計画に定めた小項目ごとに法人が行った自己評価の内容を検証し、評価項目ごとに5段階で評価を行った。

凡例

(1) 法人による自己評価及び委員による検証

評価区分	評価内容
Ⅳ	年度計画を上回って実施している。
Ⅲ	年度計画を順調に実施している。
Ⅱ	年度計画を十分には実施していない。
Ⅰ	年度計画を実施していない。

(2) 評価委員会による評価

評価区分	評価内容
S	特筆すべき進行状況にある。(特に認める場合)
A	計画どおり進んでいる。(すべてⅢ～Ⅳ)
B	おおむね計画どおり進んでいる。(Ⅲ～Ⅳの割合が概ね9割以上)
C	やや遅れている。(Ⅲ～Ⅳの割合が概ね9割未満)
D	重大な改善事項がある。(特に認める場合)

I 全体評価

コロナ禍という逆風の中ではあったが、第一期中期計画の進捗を遅らせることなく、危機に柔軟に対応し、着実に前進していると認められる。

令和2年度における中期計画の実施状況は、計画どおりに進んでいると評価する。

群馬県公立大学法人は、群馬県立女子大学及び群馬県立県民健康科学大学の2大学を運営する地方独立行政法人として、平成30年4月に設立された。

法人化3年目である令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大という特殊な状況下にあったが、両大学においては、教育の質と学生が安心して学ぶ環境を確保するために、通信環境及び情報機器の整備を行い、遠隔授業の早期導入、対面授業とオンラインのハイブリッド等の工夫などを通じて、学生の主体的、自立的学習が可能となるよう特段の取組を行った。そういった努力や、両大学の特色ある取組によって英語運用能力の目標値の達成や国家試験合格率100%を継続するなどの特筆すべき成果に繋がっている。

法人による自己評価を検証した上で行った項目別評価については、全評価項目について、「A（計画どおり進んでいる）」と評価した。

法人化による機動的・安定的な運営体制の確立が順調に進んでおり、引き続き法人業務の効率化と、両大学の連携・交流を一層推進することで、県立大学としての存在意義と魅力を高め、地域や社会の期待に応えて欲しい。

Ⅱ 項目別評価

項目別評価結果一覧

評価項目		評価委員会による評価結果	
第1 教育研究等の質の向上に関する目標	1 群馬県立女子大学	A	計画どおり進んでいる。
	2 群馬県立県民健康科学大学	A	計画どおり進んでいる。
第2 大学間の連携に関する目標		A	計画どおり進んでいる。
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標		A	計画どおり進んでいる。
第4 財務内容の改善に関する目標		A	計画どおり進んでいる。
第5 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標		A	計画どおり進んでいる。
第6 その他業務運営に関する重要目標		A	計画どおり進んでいる。

第1 教育研究等の質の向上に関する目標

1 群馬県立女子大学

(1) 評価結果

評価委員会による評価	A	計画どおり進んでいる。
------------	----------	-------------

法人による自己評価と評価委員会による検証結果

年度計画における小項目		法人による自己評価		評価委員会による 検証結果
(1) 教育に関する 目標	ア 入学者の受入れ	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	同左
	イ 教育の内容	Ⅳ	年度計画を上回って実施している。	同左
	ウ 教育の実施体制	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当
	エ 学生支援	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当
(2) 研究に関する目標		Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	同左
(3) 地域・社会貢献に関する目標		Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当

「(1) 教育に関する目標 ウ 教育の実施体制、エ 学生支援」及び「(3) 地域・社会貢献に関する目標」については、年度計画を上回っているとの意見もあったが、「Ⅲ（年度計画を順調に実施している）」が適当であると判断した。その他3項目については、全員一致で法人による自己評価は妥当であると判断した。

全ての項目がⅣ又はⅢ評価であるとの検証結果に基づき、年度計画の実施状況は「A（計画どおり進んでいる）」と評価した。

（２）高く評価する取組等

- コロナ禍にあって Web 出願をはじめとする志願者確保のための積極的かつきめ細かな対応。
- 国際コミュニケーション学部における英語運用能力（TOEIC 730 点以上の学生比率）の実績値が 60%以上。
- コロナ禍の中で、遠隔授業の早期導入や対面とオンラインのハイブリット等を工夫し、教育の質の確保を図っている。
- 学生の学修意欲や教育効果を高める環境整備や支援の充実が確実に行われている。
- 留学者の激減、SA・TA の利用状況の悪化など、コロナ禍による影響も出ているが、キャリア支援による就職率の実績など、概ね目標を達成している。
- 「県女ミーティング」に象徴されるように、学長自ら学生の意見を聞き、学生と一緒に大学づくりに取り組む姿勢が素晴らしい。
- 外部研究資金新規応募数、資金獲得数、受託・共同研究件数、研究論文等数が目標値を上回っている。
- 地元教育委員会や学校と連携し、児童生徒の学びの質的向上に貢献。

（３）評価に当たっての意見等

- 大学院文学研究科や国際コミュニケーション研究科の定員充足の方向性が見えてこない。学部との連携など模索が必要。
- 国際社会で通用する語学力や柔軟な発想力、さらに自分の考えを明確に主張できる卒業生を輩出することが必要であり、更なる語学教育の充実や学生の自主性を尊重したカリキュラム編成、また県女ミーティングのようなディスカッションの機会を拡充することも検討されたい。
- 「県女ミーティング」や授業改善のためのアンケートは評価するがアンケートの回収率の向上に向けた方策を講ずる必要がある。
- 地域連携や公開講座等の実績がコロナ禍で大きな影響を受けている。県内就職率も下降しており、工夫が求められている。
- コロナ禍で対外活動が制約される中オンライン等の活用によって隠れた本県の魅力を発信し、若者の群馬離れを阻止する役割を担って欲しい。
- 「地域貢献センター（仮称）」の設置が早期に望まれる。

2 群馬県立県民健康科学大学

(1) 評価結果

評価委員会による評価	A	計画どおり進んでいる。
------------	----------	-------------

法人による自己評価と評価委員会による検証結果

年度計画における小項目		法人による自己評価		評価委員会による 検証結果
(1) 教育に関する 目標	ア 入学者の受入れ	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当
	イ 教育の内容	Ⅳ	年度計画を上回って実施している。	同左
	ウ 教育の実施体制	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	同左
	エ 学生支援	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当
(2) 研究に関する目標		Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	同左
(3) 地域・社会貢献に関する目標		Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当

「(1) 教育に関する目標 ア 入学者の受入、エ 学生支援」及び「(3) 地域・社会貢献に関する目標」については、年度計画を上回っているとの意見もあったが、「Ⅲ（年度計画を順調に実施している）」が適当であると判断した。その他3項目については、全員一致で法人による自己評価は妥当であると判断した。

全ての項目がⅣ又はⅢ評価であるとの検証結果に基づき、年度計画の実施状況は「A（計画どおり進んでいる）」と評価した。

(2) 高く評価する取組等

- 定員充足率、志願倍率とも R5 年度までの目標を達成。
- アセスメントポリシーの策定やコロナ禍の中で臨地実習に代わる実習方法の模索など、きめ細かい対応が各国家試験合格率 100%及び高い授業満足度を実現している。
- 学内の ICT 環境の整備、図書館の学生対応の充実、教員の適正配置等教育の実施体制。
- 学生支援のきめ細かな対策や、就職率 100%、オンライン国際学会への参加などの工夫。
- 地域の高度保健医療人材育成において高い実績をあげ、地域の県立大学としての使命を果たしている。
- コロナ禍においても、県立病院や県内自治体との連携事業は積極的に行われている。

(3) 評価に当たっての意見等

- 更なる教員のレベルアップに向けた方策に期待する。
- カリキュラム・アドバイザーやグループ担任制度によるきめ細かい指導は特筆に値するが、コロナ禍で医療従事者の確保が重要視される中、県内医療機関への就職率向上を望む。
- 新卒者の県内就職率は、看護学部、診療放射線学部とも、積極的に高めることが望まれる。

- 地域課題の解決に資する研究や、県内医療機関との共同研究の積極的支援により、本県の医療技術の向上も視野に入れた支援体制の構築を望む。
- R2年度は外部資金獲得、受託研究数、研究論文や発表数が減少しているが、コロナ禍の影響と推察。特に外部研究資金の獲得は積極的に取組んで欲しい。
- 県内医療機関との共同研究事業を一層活発に行い、また学生の学会発表や論文投稿などを支援し、優秀な人材を県内に多く輩出することで本県の医療の充実・発展に寄与することを望む。

第2 大学間の連携に関する目標

(1) 評価結果

評価委員会による評価	A	計画どおり進んでいる。
------------	----------	-------------

法人による自己評価と評価委員会による検証結果

年度計画における小項目	法人による自己評価	評価委員会による 検証結果
大学間の連携に関する目標	Ⅲ 年度計画を順調に実施している。	同左

法人が「Ⅲ（年度計画を順調に実施している）」とした自己評価は全員一致で妥当であると判断し、年度計画の実施状況は「A（計画どおり進んでいる）」と評価した。

(2) 高く評価する取組等

- 両大学の連携を軸に、国公立大学の連携も順調に進んでいる。
- ファカルティディベロップメントの協働実施。

(3) 評価に当たっての意見等

- 将来的には医療分野の「地域医療連携推進法人」制度を参考に人事交流や設備の共同利用などに関し協議、勘案してはどうか。
- 群馬県国公立大学意見交換会を充実し、具体的な教育支援が望まれる。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価委員会による評価	A	計画どおり進んでいる。
------------	----------	-------------

法人による自己評価と評価委員会による検証結果

年度計画における小項目	法人による自己評価	評価委員会による 検証結果

1 組織運営の改善に関する目標	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	同左
2 人事の適正化に関する目標	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	同左
3 効率的・合理的な業務執行に関する目標	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	同左

3つの小項目について、法人が「Ⅲ（年度計画を順調に実施している）」とした自己評価は全員一致で妥当であると判断した。

全ての項目がⅢ評価であるとの検証結果に基づき、年度計画の実施状況は「A（計画どおり進んでいる）」と評価した。

（２）高く評価する取組等

- 危機対策本部の立ち上げなど、意思決定の迅速化が図られた。
- 理事長、学長のリーダーシップをとりやすい組織づくり。
- 懸案事項であったプロパー職員採用について、計画が具体化した。

（３）評価に当たっての意見等

- ポストコロナを見据えた危機管理及び広報戦略に特に力を入れて欲しい。
- 法人全体の事務組織、事務内容の見直しの更なる充実が望まれる。
- 入試、教務、就職関連など、大学運営にとって専門性を求められる部署へのプロパー職員の配置は、なるべく早く検討するべき事項だと思われる。
- 事務の共通化を一層推進するとともに、法人本部と両大学間における事務職員等の定期的なローテーションを行ってはどうか。
- 業務委託等について法人で一括発注できるものは積極的に実施されたい。

第４ 財務内容の改善に関する目標

（１）評価結果

評価委員会による評価	A	計画どおり進んでいる。
------------	----------	-------------

法人による自己評価と評価委員会による検証結果

年度計画における小項目	法人による自己評価		評価委員会による 検証結果
財務内容の改善に関する目標	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	同左

法人が「Ⅲ（年度計画を順調に実施している）」とした自己評価は全員一致で妥当であると判断し、年度計画の実施状況は「A（計画どおり進んでいる）」と評価した。

（２）高く評価する取組等

- 財務内容の改善については計画どおり推進されている。

(3) 評価に当たっての意見等

- 「令和2年度財務諸表の概要」は、法人化後の推移が一覧できる概要が欲しい。
- 外部研究資金獲得に向けた支援体制の充実と、民間のノウハウを取り入れた更なる経費削減を断行して欲しい。
- 2大学での共通経費の一括化等により経費の縮減が望まれる。

第5 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価委員会による評価	A	計画どおり進んでいる。
------------	----------	-------------

法人による自己評価と評価委員会による検証結果

年度計画における小項目	法人による自己評価		評価委員会による 検証結果
1 自己点検・評価等に関する目標	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	同左
2 情報公開等の推進に関する目標	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	同左

2つの小項目について、法人が「Ⅲ（年度計画を順調に実施している）」とした自己評価は全員一致で妥当であると判断した。

全ての項目がⅢ評価であるとの検証結果に基づき、年度計画の実施状況は「A（計画どおり進んでいる）」と評価した。

(2) 高く評価する取組等

- Webによる情報提供の必要性が増す中で、Webオープンキャンパスやリモートの授業や研究会などに対応している。
- 女子大において自己点検・評価結果や第三者評価の結果を大学の改善に活かすために体制を再構築している。

(3) 評価に当たっての意見等

- 県内国公立5大学による相互評価を実施してはどうか。
- 令和元年度の自己点検、評価等に対する対応が望まれる。

第6 その他業務運営に関する重要目標

(1) 評価結果

評価委員会による評価	A	計画どおり進んでいる。
------------	----------	-------------

法人による自己評価と評価委員会による検証結果

年度計画における小項目	法人による自己評価		評価委員会による 検証結果
1 施設・設備の保全・活用に関する目標	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当
2 安全管理に関する目標	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	同左
3 社会的責任及び法令遵守に関する目標	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	同左

「1 施設・設備の保全・活用に関する目標」については、年度計画を上回っているとの意見もあったが、「Ⅲ（年度計画を順調に実施している）」が適当であると判断した。「2 安全管理に関する目標」及び「3 社会的責任及び法令遵守に関する目標」については、全員一致で法人による自己評価は妥当であると判断した。

全ての項目がⅢ評価であるとの検証結果に基づき、年度計画の実施状況は「A（計画どおり進んでいる）」と評価した。

（２）高く評価する取組等

- 施設・設備の定期点検等が適切に行われ、大規模改修も計画的に行われている。
- 教職員のストレスチェック、学生のメンタルヘルス対策、コロナ対策など、順調に実施されている。
- 内部・外部通報の窓口の周知、内部・外部監査を使った有効性の確認、ハラスメント防止施策、情報セキュリティ、省エネ、リサイクルの推進等、着実に進められている。

（３）評価に当たっての意見等

- 学生・教職員ともにメンタルヘルスへの取り組みの強化と、策定されたBCPの周知徹底を図ることが必要。
- 社会貢献の一環としてSDGsへの取組を推進してはどうか。
- 内部統制の有効性やコンプライアンスの観点から監事、内部監査人、経営者の意見交換会はいかがか。

【参考：全体についてのコメント】

- コロナ禍による遠隔授業や対外活動の制限など、これまでと違う環境下であって、教育の質の維持・向上と、学生が大学に愛着心を抱くような創意工夫と事業運営を目指して欲しい。
- 明確な目標設定に対して、その達成のための具体的項目が明確であり、タイムスケジュールが意識され、順調に実績を残している。
- 昨年度も1年間に進んだ改善のスピードに驚いたが、今年度はより一層の改善がなされ、さらに驚いた。素晴らしい成果と考える。法人並びに両大学の益々の発展を期待する。
- 法人化の作業が順調に進んでいる。これからの大きな方向性として、県立大学として両大学が連携して魅力を高めていくことが進めば、第2期中期計画に向けて、「一法人一大学への移行」の可能性、それに伴う「女子大学の男女共学化」の可能性も検討することが必要ではないか。

資料

○ 群馬県公立大学法人業務実績評価実施要領

平成30年10月15日
群馬県公立大学法人評価委員会決定

1 趣 旨

群馬県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が行う群馬県公立大学法人（以下「法人」という。）の業務の実績に関する評価に関し、必要な事項を定める。

2 評価方針

- (1) 大学の教育研究の特性及び大学の自主性や自立性に配慮しつつ、法人が適正かつ効率的に運営されるよう、法人の業務運営の改善や向上に資するものとする。
- (2) 法人運営の透明性の確保に資するよう、法人の各事業年度の業務運営に関する計画（以下「年度計画」という。）の進捗状況や中期目標を達成するための計画（以下「中期計画」という。）の達成に向けた取組の成果を明確に評価するものとする。
- (3) 法人がより魅力ある大学とするために実施する特色ある取組や工夫に対して、積極的に評価を行うものとする。

3 評価の種類等

評価委員会が実施する評価の種類、対象・趣旨、実施時期は、次の表のとおりとする。

種類	対象・趣旨	実施時期
(1) 事業年度評価	各事業年度における年度計画に係る業務実績の評価 (中期目標の達成に向けた中期計画の進捗確認含む)	毎年度終了後
(2) 中間評価	中期目標期間の最後の事業年度の前々事業年度（4年目）における中期目標期間終了時（6年目）に見込まれる当該期間における業務実績の評価	中期目標期間 4年目終了後
(3) 中期目標期間評価	中期目標期間（6年間）における業務実績の評価	中期目標期間 終了後

4 評価方法

(1) 評価の手法

事業年度評価、中間評価及び中期目標期間評価は、それぞれ項目別評価及び全体評価により実施する。

ア 項目別評価

評価委員会は、年度計画又は中期計画に定めた最小の事項（以下「小項目」という。）ごとに法人が行った自己評価の内容を検証し、別紙に定めた評価の単位とする項目（以下「評価項目」という。）ごとに5段階で評価を行う。

イ 全体評価

評価委員会は、項目別評価の結果を踏まえ、法人の業務実績の全体について総合的に評価を行う。

(2) 項目別評価

ア 法人による自己評価

(ア) 法人は、年度計画又は中期計画の実施状況を小項目ごとに次の4段階で評価し、当該実施状況の評価及びその理由等を記載した業務実績報告書（以下「業務実績報告書」という。）を評価委員会に提出する。

評価区分	評価内容
Ⅳ	年度計画を上回って実施している。
Ⅲ	年度計画を順調に実施している。
Ⅱ	年度計画を十分には実施していない。
Ⅰ	年度計画を実施していない。

※中間評価及び中期目標期間評価においては、「年度計画」とあるのは、「中期計画」とする。

(イ) 法人は業務実績報告書に、(ア)に掲げるもののほか、評価項目ごとに法人として特色ある取組や工夫などを記載する。

イ 評価委員会による法人の自己評価の検証

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書について、法人に対してヒアリング等を実施し、小項目ごとに法人が行った評価を検証する。

ウ 評価委員会による評価

(ア) 評価委員会は、イの検証結果に基づき、当該年度における年度計画及び中期計画の実施状況又は中期目標の達成状況を評価項目ごとに次の5段階で評価する。

【事業年度評価の評価区分】

評価区分	評価内容
S	特筆すべき進行状況にある。（特に認める場合）
A	計画どおり進んでいる。（すべてⅢ～Ⅳ）
B	おおむね計画どおり進んでいる。（Ⅲ～Ⅳの割合が概ね9割以上）
C	やや遅れている。（Ⅲ～Ⅳの割合が概ね9割未満）
D	重大な改善事項がある。（特に認める場合）

【中間評価及び中期目標期間評価の評価区分】

評価区分	評価内容
S	中期目標の達成状況が非常に優れている。（特に認める場合）
A	中期目標の達成状況が良好である。（すべてⅢ～Ⅳ）
B	中期目標の達成状況が概ね良好である。（Ⅲ～Ⅳの割合が概ね9割以上）
C	中期目標の達成状況が不十分である。（Ⅲ～Ⅳの割合が概ね9割未満）
D	中期目標の達成のためには重大な改善事項がある。（特に認める場合）

(イ) 中期目標期間評価のうち大学の教育研究等の質の向上に関する目標の評価は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第79条の規定により、認証評価機関の教育及び研究の状況についての評価を踏まえて実施する。

(3) 全体評価

評価委員会は、(2)の項目別評価の結果を踏まえ、当該年度における中期計画の実施状況若しくは中期目標の達成状況並びに法人の業務実績の全体について、記述式により総合的に評価を行う。

5 評価結果

- (1) 評価委員会は、評価の結果を法人に通知する。
- (2) 項目別評価結果がB又はCの評価項目については、法人が自主的に業務運営の改善その他の所要の措置を講ずるものとする。
- (3) 項目別評価結果がDの評価項目については、評価委員会が業務運営の改善その他の勧告を行う。

6 業務実績報告書の提出時期

法人は、業務実績報告書を6月末日までに評価委員会に提出する。

7 その他

この要領は、必要に応じて改定を行う。

別紙 評価の単位とする項目

中期計画・年度計画項目		
評価項目	小項目	
第1 教育研究等の質の向上に関する目標	1 女子大学	(1) 教育に関する目標
		ア 入学者の受入れ
		イ 教育の内容
		ウ 教育の実施体制
		エ 学生支援
	(2) 研究に関する目標	
	(3) 地域・社会貢献に関する目標	
	2 県民健康科学大学	(1) 教育に関する目標
		ア 入学者の受入れ
		イ 教育の内容
		ウ 教育の実施体制
		エ 学生支援
		(2) 研究に関する目標
		(3) 地域・社会貢献に関する目標
第2 大学間の連携に関する目標	—	
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標	1 組織運営の改善に関する目標	
	2 人事の適正化に関する目標	
	3 効率的・合理的な業務執行に関する目標	
第4 財務内容の改善に関する目標	—	
第5 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	1 自己点検・評価等に関する目標	
	2 情報公開等の推進に関する目標	
第6 その他業務運営に関する重要目標	1 施設・設備の保全・活用に関する目標	
	2 安全管理に関する目標	
	3 社会的責任及び法令遵守に関する目標	

○ 群馬県公立大学法人評価委員会 委員名簿

任期：令和3年7月18日～令和5年7月17日

氏名	役職等	備考
大宮 登	高崎経済大学 名誉教授	委員長
鈴木 宏子	共和産業株式会社 代表取締役社長	
西松 輝高	群馬県医師会 副会長	
平田 郁美	群馬県 教育長	委員長職務代理
松井 理	日本公認会計士協会東京会群馬県会 幹事	

(五十音順・敬称略)